

学術論文

# マレーシア政府派遣留学生の日本語学習観の変容について

## ～COVID-19パンデミック下のオンライン授業と パンデミック後の対面授業を比較して～

安 龍洙・太田 亨<sup>注1</sup>

### 要 旨

本稿では、マレーシア政府派遣留学生を対象に来日前後の日本語学習観の変容についてPAC分析を用いて質的に検討した。来日前の調査はCOVID-19パンデミックのために、本国で1年次前期が終了した時点で1回目の調査を、来日後の調査は来日後に2年が経過した3年次前期が終了した時点で2回目の調査を行った。その結果、来日前の調査時では、以下のような結果が示された。(1)最も重要な日本語学習として漢字の学習を挙げているが、漢字の学習量が少なく、特に、漢字を書くことが難しいと感じている。(2)敬語、自動詞と他動詞、速読、カタカナ語について難しく感じており、最も難しい日本語は会話であると感じている。(3)オンライン授業においては漢字の読み書きが難しくなり、日本語で話す機会が少なくなったと感じている。また、来日後の調査では次のような結果が示された。(1)日本留学後は、漢字の意味を類推する力は伸びたのに対して、逆に漢字を書く力が弱くなったと捉えている。(2)会話の際に話し言葉と書き言葉の使い分けと普通形と丁寧形の使い分けが難しいと感じている。(3)日本語の自律学習ができるようになっており、漢字の意味、待遇表現、語彙力、会話力などは留学前より能力が高くなったと考えている。(4)学習困難点として、漢字の書き方、常体と敬体の使い分け、使役形、受身形、敬語などを挙げている。さらに、漢字の読み書き、敬語の使用、自律学習、語彙力、聞き取り、速読、カタカナ語などの日本語学習については、来日後で変化が起きている、と感じていることがわかった。

**キーワード：**マレーシア政府派遣留学生、マラヤ大学日本語予備教育課程(AAJ)、日本語学習観、日本語学習観の変容、PAC分析

## I. はじめに

本稿は、マレーシア政府派遣留学生の日本語学習観について、内藤(2002)が開発したPAC分析法を用いて実施した質的研究の分析結果を報告するものである。

マレーシア政府派遣プログラムには、日本語予備教育を伴ったものが4種類存在することが知られている<sup>注2</sup>。このうち本稿で扱うのは、マラヤ大学日本語予備教育課程(AAJ)<sup>注3</sup>によるプログラムで、マレー系マレーシア人学生がマレーシア国内の高校を卒業後、2年間にわたる予備教育を経て、日本の国立大学に1年次から入学するというものである。

佐々木良造(2023)によれば、AAJ卒業時のマレーシア政府派遣留学生の日本語能力はJLPT N2レベルに達するようになるというが、1983年度に始まったAAJは35年間をかけて様々なカリキュラムの改変を経てきており、そのうち日本語教育については、佐々木良造(2023)以前からも、佐々木瑞枝(1989)、小川(1995)、渡辺(2003)等により、教育内容の報告や問題点の指摘が行われていた。しかしながら、渡日して日本の大学に入学してからのマレーシア政府派遣留学生がどのような日本語学習の問題点を抱えているかについては、管見の限り、ほとんど研究がなされてこなかった。

そこで本研究では、日本の某国立大学工学部に入学したマレーシア政府派遣留学生2名を対象として、質的なインタビュー調査を実施することとした<sup>注4</sup>。

## II. 研究方法

調査は、前述のとおり、内藤(2002)が開発した質的研究法であるPAC分析法を用いて行った。1回目の調査はCOVID-19パンデミックのため日本に出国できず本国で1年次前期が終了した時点(2021年8月頃)で、2回目の調査は来日後に2年が経過した3年次前期が終了した時点(2023年8月頃)でそれぞれ実施し、日本語学習観及びその変容について探った。

表1は、本研究の調査対象となったマレーシア政府派遣留学生2名の属性である。

表1 被調査者の属性

	被験者A	被験者B
性別	男性	女性
予備教育期間	2019年5月～2021年3月	2019年5月～2021年3月
大学所属・学年	工学部・情報工学科	工学部・物質科学工学科

第1回目の調査は次の手順にしたがって行った。まず、被調査者に以下の刺激語を与え、そのイメージについて思いつくままに記入してもらった。

【刺激語】あなたは『現在受けている授業での日本語の理解力、今までの日本語の勉強』についてどんなイメージを持っていますか。思い浮かんだ言葉やイメージを思い浮かんだ順に記入してください。言葉でも短い文でも構いません。

その後、そのイメージを重要と思われる順序に並べさせ、さらにそれぞれのイメージの組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのかを7段階尺度で評定してもらった。この尺度での回答を基に、ウォード法でクラスター分析し、その結果に対する対象者自身の解釈を求めた。連想項目のイメージについて、プラスイメージの場合は(+), マイナスイメージの場合は(-), どちらともいえない場合は(0)の記号を記入してもらった。

2回目の調査は、1回目の調査時のPAC分析の結果及び被調査者本人によるクラスター解釈を示し、それについて今はどのように感じているのか、また、1回目と比較して変わったことはないのかについて尋ねた。インタビューは日本語で実施したが、言い間違い、言い直し、言い淀みなどの日本語の間違いと、日本語の誤用については正しい日本語に直した。

### Ⅲ. 分析結果

本節では、まず、図1～2に被験者A(以下、「A」とする)、及び被験者B(以下、「B」とする)のクラスター分析の結果を示し、表2～3に1回目と2回目のクラスターの解釈を示す。

#### 1. AのPAC分析結果

まず、Aのクラスター分析の結果を図1に、1回目と2回目のクラスター解釈を表2にそれぞれ示す。

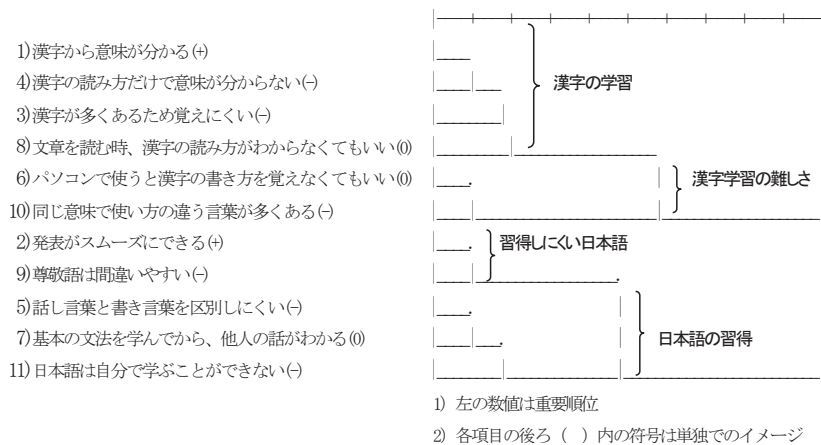


図1 Aのデンドログラム

表2 Aのクラスター解釈

クラスター名	クラスター1: [1] 漢字から意味が分かる(+), [4] 漢字の読み方だけで意味が分からない(-), [3] 漢字が多くあるため覚えにくい(-), [8] 文章を読む時、漢字の読み方がわからなくてもいい(0)	クラスター名: 漢字の学習
前回	クラスター1は漢字の理解力のことです。漢字の理解力は、漢字の意味、漢字の読み方と使い方のことです。私の理解では漢字は形から意味がすぐ分かります。しかし、漢字の読み方が分かっても漢字の意味は分からないことがあります。また、漢字が多いからちょっと覚えにくいです。文章を読む時は漢字の読み方が分からなくてもいいと思います。それは漢字の形だけで意味が分かるからです。大学の授業は資料がいっぱいあるから、その資料を全部読むのは結構大変です。資料には漢字がたくさんあって、習っていない漢字もたくさんありますが、『数学』と『情報工学』の専門科目がその例です。マレーシアで勉強したのは基本的な漢字だけです。(その時はどうする?)時々辞書を使いますが、それでも分からない時はマレーシアの友達に聞きます。全部はわかりませんが80%くらいは理解できます。(オンライン授業で感じたことは?)先生の話が分からなかったら資料を見ますが、漢字の読み方を知る必要があります。でもパソコンを使うから漢字の書き方は分からなくてもいいです。また、意味が似ている漢字語彙が多い時は使い方がよくわからないことがあります。	
今回	今は授業の資料とスライドが全部分かります。漢字の読み方が分からなくても意味が分かるから問題ないと思います。JPTのN1を受験するために勉強したので漢字をたくさん覚ええました。今漢字のことで困っていることは読み方だけです。ディスカッションや発表の時に文章を読むことが難しく感じる時があります。(1回目と比べて一番変わったことは?)漢字は読み方が分からなくても意味が分かるようになりましたが、逆に漢字の書き方を忘れてしまったことです。今はパソコンでタイプするので手で書くことがあまりないから書けない漢字が多くなりました。(オンライン授業で感じたことは?)今は全部対面で授業を受けています。	

<p>クラスター2：『6』パソコンを使うと漢字の書き方を覚えなくてもいい(0)』、 『10』同じ意味で使い方の違う言葉が多くある(+)』</p>	<p>クラスター名： <b>漢字学習の難しさ</b></p>
<p>前回 クラスター1と似ていますが、漢字の使い方と語彙のことです。クラスター1は漢字の意味、クラスター2は漢字の意味と使い方のことです。漢字の書き方が分からないから、授業の時に漢字が書けないです。また、食べるは、「食べる、食う、召し上がる」などの使い方がるから難しいです。他動詞と自動詞も難しいです。(オンライン授業で感じたことは?) オンラインだから『6』漢字の書き方を覚えなくてもいい』から便利ですが、『10』同じ意味で使い方の違う言葉が多くある』から逆に難しいこともあります。</p>	
<p>今回 先にも話したように、今はパソコンで漢字を入力するから簡単な漢字も書けなくて試験の時は困っています。また、去年の後期から友達が出来て日本語がちょっと話しにくいと思いました。例えば、「食べる」と「食う」のことですが、友達はよく「食う」という日本語を使いますが、私はまだ慣れないんです。(1回目と比べて一番変わったことは?) 話し相手によって使うべき日本語がだんだん分かってきたことです。例えば、友達に使う言葉と先生に使う言葉が分かってきて、前よりは日本語力が上がったと思います。敬語に関しても日本のニュースをよく見るので慣れていていると思います。</p>	
<p>クラスター3：『2』発表がスムーズにできる(+)、 『9』尊敬語は間違いない(+)』</p>	<p>クラスター名： <b>習得しにくい日本語</b></p>
<p>前回 クラスター3は習った表現の使い方です。日本語の授業で発表や友達と話すことで色々な表現を学びました。でも難しい表現と易しい表現があります。先生や目上の人に話す時に、尊敬語が難しいです。(例えば?) 尊敬語を使う時に、「食べる」と「召し上がる」のような特別な言葉があるから難しいです。メールを書く時には、日本語の授業で使う教科書を参考にします。(オンライン授業で感じたことは?) 発表はオンラインでやるからスクリーンがなくてもいいです。チャレンジして自分の力で話します。</p>	
<p>今回 授業で発表は日本人に任せるから、私の日本語の発表の力が下がったかもしれません。メールは、話し言葉より硬い言葉を使うからインターネットで調べて書きます。就職活動で会社の担当者やメールのやり取りする時は難しく感じます。内容が分かりづらい時に翻訳ツールを使って理解して、返信をする時は辞書で調べます。(1回目と比べて一番変わったことは?) 今は先生と話す機会がありませんから尊敬語を使う機会が少なくなりました。</p>	
<p>クラスター4：『5』話し言葉と書き言葉を区別しにくい(+)、 『7』基本の文法を学んでから、他人の話がわかる(0)』、 『11』日本語は自分で学ぶことができない(+)』</p>	<p>クラスター名： <b>日本語の習得</b></p>
<p>前回 クラスター4は会話のことです。会話の時に、色々な場面を考えなければなりません。話し言葉と書き言葉が違うので区別するのが少し難しいです。たとえば、友達が話す時はタメゴを使うから難しいです。友達が難しい言葉や文法を使う時も難しいです。友達が教科書にない文法を使うから難しいです。(オンライン授業で感じたことは?) 友達と日本語で話す機会がないから会話の勉強が難しいです。会話力が低くなったと思います。</p>	
<p>今回 日本人の友達と話す時に、私が書き言葉を使って変な感じの日本語になってしまっていて気まずい雰囲気になってしまうことがあります。今は具体的な例は思い出せませんがそういうことが結構あります。(1回目と比べて一番変わったことは?) 今は分からない言葉が出てきたら友達に聞きます。『11』日本語は自分で学ぶことができない』のイメージは、今は自分で勉強できるようになったから変わったと思います。(どうやって勉強している?) JPTのN1の参考書で勉強して、分からない言葉や文法があったら友達に聞きます。</p>	
<p><b>全体について</b></p>	
<p>前回 (①全体のイメージは?) 日本語は一人で勉強することができません。日本語を勉強する時は先生と友達が必要です。先生と友達がいたら練習したり、文法の違いがあったら直したりしてくれます。そして、日本語は勉強するのに時間がかかります。練習しなかったら日本語能力が低くなります。特に会話能力が低くなりました。(②日本語の学習で一番難しいことは?) 会話と敬語が難しいです。(③オンラインで授業を受けて日本語で困っていることは?) 分からない時に先生に質問できないから困っています。チャットで質問することもできますが、難しいです。</p>	
<p>今回 (①全体のイメージは?) 今は日本人の友達が6人ぐらいできて会話する機会も良くあって、その面で良くなったと思います。今は独学で勉強しています。(②日本語の学習で一番難しいことは?) 日本人が話す時に、早口で話して聞き取りにくいことがあります。先生が教える時にも言葉が早く聞き取りにくい時があります。友達なら「もう少しゆっくり話してくれる?」と聞き返しますが、先生が授業で話す時は分からなくも諦めます。授業の内容が分からなくて困る時もあります。特に、授業の資料に詳しく書いてない時は全体的に分からなくて困ります。でも今はその1科目だけです。(どんな授業?) ソフトウェアの作り方の授業です。どのようなソフトウェアを作ったらいいかとか論理的なことを話す授業です。</p>	

## 2. BのPAC分析結果

次に、Bのクラスター分析の結果を図2に、1回目と2回目のクラスター解釈を表3にそれぞれ示す。

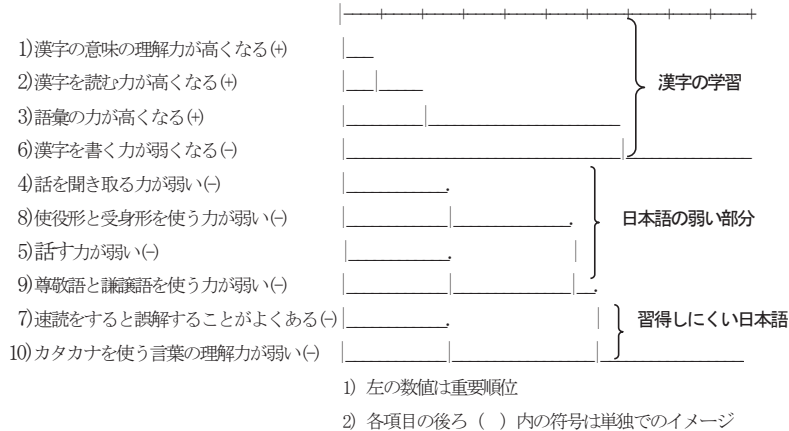


図2 Bのデンドログラム

表3 Bのクラスター解釈

クラスター名	クラスター1	クラスター2
漢字の学習	「1) 漢字の意味の理解力が高くなる(+), 2) 漢字を読む力が高くなる(+), 3) 語彙の力が高くなる(+), 6) 漢字を書く力が弱くなる(-)」	
日本語の弱い部分	「4) 話を聞き取る力が弱い(-), 8) 使役形と受身形を使う力が弱い(-), 5) 話す力が弱い(-), 9) 尊敬語と謙譲語を使う力が弱い(-)」	
習得しにくい日本語	「7) 速読をすると誤解することがよくある(-), 10) カタカナを使う言葉の理解力が弱い(-)」	
前回	大学が始まってからの変化です。日本へ行くための準備コースでは漢字と語彙が弱いと思いましたが、大学の授業が始まってから日本語で多くのものを読みますから、力が高くなります。レポートを書くために色々なものを読まなければならないから力が高くなります。大学が始まってパソコンをよく使うため、手で漢字を書くことがなかなかないから弱くなります。(オンライン授業で感じたことは?) 漢字を書くことが少なくなったと思います。オンラインなのでなかなか書く機会がないです。書く必要がある科目がありますが専門科目の1科目だけです。	「1) 漢字の意味の理解力が高くなる(+), 2) 漢字を読む力が高くなる(+), 3) 語彙の力が高くなる(+), 6) 漢字を書く力が弱くなる(-)」
今回	今も同じです。漢字の理解力、読む力、語彙の力はだんだん高くなりましたが、漢字の書く力は弱くなったと思います。パソコンを使っているし、漢字を書く授業を一つだけで、その授業は文章を書く練習をする授業ですから複雑な漢字を練習します。よく使う簡単な漢字は練習しなくても大丈夫かなと思って勉強しないから小テストの時に複雑な漢字は書けるけど、簡単な漢字が逆に書けないです。簡単な漢字の書き方を忘れてしまいました。(1回目と比べて一番変わったことは?) 漢字の意味(の類推)と語彙力が伸びました。漢字の読む力より漢字の意味(の類推)の力が伸びました。2年生の時に受けた実験の授業は、難しい漢字と語彙は自分で授業の前にちゃんと調べたから、漢字の読み方がだんだん分かるようになりました。しかし、ある時に忙しくて、漢字の予習をしなくて授業を受けて、漢字の意味は分かったが読み方が分からないことがありました。漢字が読めなくても意味は分かるようになったと思います。(オンライン授業で感じたことは?) 基礎科目の授業を受けています。ライフデザインの授業で毎回レポートはパソコンを使いますが、2年前より漢字を使う機会ももっと増えたと思います。もう一つの基礎科目はメディア文化という科目で内容が私にとってはちょっと難しいかなと思います。メディア文化の科目は日本人向けのメディア文化だから分からない言葉が多くて授業の内容が難しいです。その授業は授業の後に感想を書きますが、先生のスライドに基づかない内容を書いてしまったり、その授業のタイトルを参考に英語でネットで調べて書いたりしますが、ネットで調べて授業の内容が分かるようになりました。スライドも授業後にアップロードしますから予習ができないうです。	「4) 話を聞き取る力が弱い(-), 8) 使役形と受身形を使う力が弱い(-), 5) 話す力が弱い(-), 9) 尊敬語と謙譲語を使う力が弱い(-)」
前回	上達したい日本語です。これは今弱くて、なかなか良くならない日本語です。オンライン授業なので授業の時だけ日本語で話します。日本語の授業だけ日本語で話しますが、他の授業は先生が話すだけでクラスメートとも話しません。8) 使役形と受身形と 9) 尊敬語と謙譲語はまだ自信がありません。(オンライン授業で感じたことは?) 日本語で話すことが少ないと思います。もっと話す授業を増やしたほうがいいと思います。	「7) 速読をすると誤解することがよくある(-), 10) カタカナを使う言葉の理解力が弱い(-)」
今回	(1回目と比べて一番変わったことは?) 聞き取りは2年前より高くなったと思います。でも使役形と受身形の力は変わらないと思います。話す力は2年前よりだんだん高くなったと思いますが、以前は授業の準備とかで丁寧な言葉が普通形よりよくできたと感じます。今は友達と普通形をよく使うから丁寧な言葉を使わないといけない時に普通形で話してしまっていてそれがちょっと問題だと感じています。尊敬語と謙譲語は今でも弱いと感じています。「8) 使役形と受身形を使う力が弱い(-)」と「9) 尊敬語と謙譲語を使う力が弱い(-)」はまだ自信がありません。(オンライン授業で感じたことは?) 今のオンライン授業を受けてレポートを書くだけで話す機会がありません。	

クラスター3：『7』速読をすると誤解することがよくある(+) 『10』カタカナを使う言葉の理解力が弱い(-)		クラスター名： <b>習得しにくい日本語</b>
前回	特に7)速読は上達すべきことだと思います。大学では全部日本語しか使わないので速読できると思います。マレーシアでも速読をしますがよく誤解してよく間違えます。日本語の読解で速読すると誤解することに気づきました。カタカナは、ワクチンのことを先生に言われましたが、英語の発音と違うから分かりませんでした。ラインの日本語のチャンネルを見ているが、カタカナの言葉が多いです。日本語にはカタカナの言葉は多いと思います。マレーシアでカタカナ語を使って話す時はいつも友達に聞きました。マレーシアでは授業の前に語彙リストで意味と例文の勉強をします。パンフレットは英語ですが、発音が違うから英語だと思わなかったですが、友達に聞いたら英語の「Pamphlet」だと教えてくれました。(オンライン授業で感じたことは?)特にありません。	
今回	『1』回目と比べて一番変わったことは?)速読は上達したと感じます。カタカナも色々な本を読んで勉強して2年前より上達したと思います。(オンライン授業で感じたことは?)『メディア文化』の授業で内容が難しいから速読は無理だと思います。『メディア文化』の授業で使うカタカナ言葉は戦争とメディアについてイギリスのこととか、戦争時の地域の名前とかが出るから始めは難しかったが今は慣れました。	
全体について		
前回	①全体のイメージは?)大学が始まってから日本語で色々な本を読んで漢字と語彙は上達したと思いますが、まだマレーシアにいるので日本語で話す機会がなくても話す力が弱いと思います。②日本語の学習で一番難しいことは?)話す力が一番弱いと思います。チューターと話したのも4回だけで、チューターは3年生だから忙しくて時間がないみたいです。③オンラインで授業を受けて日本語で困っていることは?)先生がお知らせを話す時、スライドなしで話すから分からないことがあります。先生の話聞き取って理解するのに時間がかかります。先生がずっと日本語で話していて、最後に先生の話した内容が何だったのか、分からなくなる時があります。一部だけ分かって全体の内容が分からない時があります。	
今回	①全体のイメージは?)今は漢字と語彙は上達しましたし、話す機会も多くなって上達したと思います。日本人と話す機会は多くないが周りには日本人だけなので日本語で話す機会があります。実験の時と宿題のことで相談するし、学内とかであった時に、友達が何か問題がないか聞かれて、授業が難しいと話す、色々話してくれるから、そのおかげで上達したと思います。②日本語の学習で一番難しいことは?)日本語の一番難しい部分は漢字で、特に書くのが一番難しいです。書くのは試験の時しか書かないからです。試験の時はいつも漢字の正確な書き方が分からないから困っています。前回と比べて一番変わったことは、話を聞き取る力が強くなったことです。今はスライドがなくても先生の説明が分かります。でも、今でも自分がメモし先生が話を聞くと分からない時があります。	

## IV. 考察

本章では、前章の結果に基づき、IV-1では本国におけるCOVID-19パンデミック下の日本語学観、IV-2では来日後のCOVID-19パンデミック後の日本語学習観、IV-3ではCOVID-19パンデミック前後の日本語学習観の変化について述べる。

### 1. 本国におけるCOVID-19パンデミック下の日本語学習観

#### 1) 最も重要な日本語学習

まず、ここではAとBが現在受けている授業での日本語の理解力、今までの日本語の勉強について重要と考えていることが何かを探るために、重要なイメージ項目として上位3項目を取り上げる。Aの上位3項目は『1)漢字から意味が分かる(+)]『2)発表がスムーズにできる(+)]『3)漢字が多くあるため覚えにくい(-)]で、Bの上位3項目は『1)漢字の意味の理解力が高くなる(+)]『2)漢字を読む力が高くなる(+)]『3)語彙の力が高くなる(+)]である。A、Bともに漢字に関連する項目を2ずつ取り上げており、漢字の学習が重要であると考えているようである。Aの「資料には漢字がたくさんあって、習っていない漢字もたくさんありますが、『数学』と『情報工学』の専門科目がその例です。マレーシアで勉強したのは基本的な漢字だけです。」とBの「日本へ行くための準備コースでは漢字と語彙が弱いと思いましたが…大学が始まってパソコンをよく使うため、手で漢字を書くことがなかなかないから弱くなります。」から授業を受



ける時に、漢字の学習が足りないと感じており、特に、専門科目の漢字が難しいと感じているようである。また、A「漢字の書き方が分からないから、授業の時に漢字が書けないです。」とBの「大学が始まってパソコンをよく使うため、手で漢字を書くことがなかなかないから弱くなります。」から漢字を書くことが難しいと感じていることがわかる。

## 2) 日本語学習の困難点

Aの『2)発表がスムーズにできる(+)], クラスター4の「友達と日本語で話す機会がないから会話の勉強が難しいです。会話力が低くなったと思います。], クラスター4の「クラスター4は会話のことです。会話の時に、色々な場面を考えなければなりません。…友達が話す時はタメゴを使うからで難しいです。], Aの全体の「日本語は一人で勉強することができません。…練習しなかったら日本語能力が低くなります。特に会話能力が低くなりました。]のクラスター解釈, と、Bの『4) 話を聞き取る力が弱い(-)], クラスター2の「オンライン授業なので授業の時だけ日本語で話します。日本語の授業だけ日本語で話しますが、他の授業は先生が話すだけでクラスメートとも話しません。], 全体の「…まだマレーシアにいたので日本語で話す機会がなくても話す力が弱いと思います。]の解釈などから「話す」「聞く」の力、特に日本語で話す機会が少ないため、話す力が弱いと感じているようである。

また、Aのクラスター2の「また、食べるは、「食べる、食う、召し上がる」などの使い方があるから難しいです。他動詞と自動詞も難しいです。], クラスター3の「先生や目上の人に話す時に、尊敬語が難しいです。」と、Bのクラスター2の「8)使役形と受身形と9)尊敬語と謙譲語はまだ自信がありません。], クラスター3の「マレーシアでも速読をしますがよく誤解してよく間違えます。…マレーシアでカタカナ語を使って話す時はいつも友達に聞きました。…パンフレットは英語ですが、発音が違うから英語だと思わなかったですが、友達に聞いたら英語の「Pamphlet」だと教えてくれました。」などから、敬語の使い方、自動詞と他動詞の区別、速読、カタカナ語を難しく感じているようである。また、Aの全体の「会話と敬語が難しいです」の解釈とBの「話す力が一番弱いと思います。チューターと話したのも4回だけで、チューターは3年生だから忙しくて時間がないみたいです。」から日本語の敬語と会話の学習が最も難しいと回答している。

## 3) オンライン授業の授業に現れた特徴

Aのクラスター2の「オンラインだから『6)漢字の書き方を覚えなくてもいい]から



便利ですが、『10)同じ意味で使い方の違う言葉が多くある』から逆に難しいこともあります。』、クラスター4の「友達と日本語で話す機会がないから会話の勉強が難しいです。会話力が低くなったと思います。」と、Bのクラスター1の「漢字を書くことが少なくなったと思います」、クラスター2の「日本語で話すことが少ないと思います。もっと話す授業を増やしたほうがいいと思います。」などから、オンライン授業の授業に現れた特徴として、漢字の書く機会が少ないため能力が低下したと感じてこと、日本語で話す機会が少なく会話力が低下したことが挙げられる。また、Aの全体の「分からない時に先生に質問できないから困っています」の解釈と、Bの全体の「…スライドなしで話すから分からないことがあります。…一部だけ分かって全体の内容が分からない時があります。」の解釈から、オンライン授業において、「質問ができないこと、授業資料がない場合は内容の理解が難しいことを指摘していることがわかる。

## 2. 来日後のCOVID-19パンデミック後の日本語学習観

### 1) 漢字学習についての捉え方の変化

Aのクラスター1の「漢字の読み方が分からなくても意味が分かるから問題ないと思います。(前回と比べて一番変わったことは?)漢字は読み方が分からなくても意味が分かるようになりましたが、逆に漢字の書き方を忘れてしまったことです」とクラスター2の「…今はパソコンで漢字を入力するから簡単な漢字も書けなくて試験の時は困っています」と、Bのクラスター1「漢字の理解力、読む力、語彙の力はだんだん高くなりましたが、漢字の書く力は弱くなったと思います。…小テストの時に複雑な漢字は書けるけど、簡単な漢字が逆に書けないです。(前回と比べて変わったことは?)漢字の意味(の類推)と語彙力が伸びました。…漢字が読めなくても意味は分かるようになったと思います。」と全体の「日本語の一番難しい部分は漢字で、特に書くのが一番難しいです。…試験の時はいつも漢字の正確な書き方が分からないから困っています。」などから、漢字学習の捉え方について変化が起きていることがわかる。

### 2) 「話す日本語」に関する捉え方の変化

Aのクラスター4の「日本人の友達と話す時に、私が書き言葉を使って変な感じの日本語になってしまって気まずい雰囲気になってしまうことがあります。」と、Bのクラスター2の「話す力は2年前よりだんだん高くなったと思いますが、以前は授業の準備とかで丁寧な言葉が普通形よりよくできたと感じます。今は友達と普通形をよく使うから丁寧な言葉を使わないといけない時に普通形で話してしまってそれがちょっと問題だと感じています。」から、「話す日本語」に関する捉え方について変化が起きて

いることがわかる。

### 3) 前回より力が伸びたと感じている日本語

Aのクラスター1の「今漢字のことで困っていることは読み方だけです」とクラスター2の「話し相手によって使うべき日本語がだんだん分かってきた」ことです。例えば、友達に使う言葉と先生に使う言葉が分かってきて、前よりは日本語力が上がったと思います。敬語に関しても日本のニュースをよく見るので慣れていていると思います。」とクラスター4の「『11)日本語は自分で学ぶことができない』のイメージは、今は自分で勉強できるようになったから変わったと思います。」と全体の「今は日本人の友達が6人ぐらいできて会話する機会も良くあって、その面で良くなったと思います。今は独学で勉強しています。」の解釈、Bのクラスター1の「漢字の意味(の類推)と語彙力が伸びました。漢字の読む力より漢字の意味(の類推)の力が伸びました。…漢字が読めなくても意味は分かるようになったと思います。」とクラスター2の「聞き取りは2年前より高くなったと思います。…話す力は2年前よりだんだん高くなったと思います」が…」とクラスター3の「速読は上達したと感じます。カタカナも色々な本を読んで勉強して2年前より上達したと思います。」と全体の「今は漢字と語彙は上達しましたし、話す機会も多くなって上達したと思います。」などからAは漢字、レベルによる日本語の使い分け(待遇表現)、独学で日本語を学習すること、会話、Bは漢字の意味の類推、聞き取り、日本語の速読、カタカナ語、漢字と語彙、話す日本語(会話力)がそれぞれ2年前より良くなったと捉えていることがわかった。

### 4) 大学3年次になった今の学習が困難な日本語

Aのクラスター1の「…逆に漢字の書き方を忘れてしまったことです。」とクラスター2の「去年の後期から友達が出来て日本語がちょっと話しにくいと思いました。例えば、「食べると食う」のようですが、友達はよく「食う」という日本語を使いますが、私はまだ慣れないんです。」とクラスター3の「授業で発表は日本人に任せるから、私の日本語の発表の力が下がったかもしれません。メールは、話し言葉より硬い言葉使うからインターネットで調べて書きます。就職活動で会社の担当者とメールのやり取りする時は難しく感じます。」とクラスター4の「日本人の友達と話す時に、私が書き言葉を使って変な感じの日本語になってしまって気まずい雰囲気になってしまうことがあります。」、Bのクラスター1の「…小テストの時に複雑な漢字は書けるけど、簡単な漢字が逆に書けないです。簡単な漢字の書き方を忘れてしまいます。」とクラスター2の「…でも使役形と受身形の力は変わらないと思います。…今は友達と普通形をよく

使うから丁寧な言葉を使わないといけない時に普通形で話してしまってそれがちょっと問題だと感じています。…『8)使役形と受身形を使う力が弱い(-)』と『9)尊敬語と謙譲語を使う力が弱い(-)』はまだ自信がありません。」などから大学3年生になった現在、Aは漢字の書き方、会話の際の普通形の使用、口頭発表、メールなどで用いられる表現、話し言葉と書き言葉の使い分け、Bは基本的な漢字の書き方、丁寧語と常体の使い分け、使役形と受身形、尊敬語と謙譲語がそれぞれ今でも難しく感じているようである。

#### 5) 今、最も難しく感じている日本語

Aの全体の「日本人が話す時に、早口で話して聞き取りにくいことがあります。先生が教える時にも言葉が早くて聞き取りにくい時があります」の解釈と、Bの全体の「日本語の一番難しい部分は漢字で、特に書くのが一番難しいです。書くのは試験の時しか書かないからです。試験の時はいつも漢字の正確な書き方が分からないから困っています」の解釈から、Aは早口言葉が、Bは漢字の書き方が日本語の最も難しく感じている日本語であると解釈している。

### 3. COVID-19パンデミック前後の日本語学習観の変化

本国でオンラインによる授業を受けていた1回目と、来日して2年が経過し通常の授業は対面で実施されていた2回目を比較して日本語の理解力と日本語学習について最も変わったことは何かについては以下のような回答があった。

A: クラスター1「漢字は読み方が分からなくても意味が分かるようになりましたが、逆に漢字の書き方を忘れてしまったことです」、クラスター2「話し相手によって使うべき日本語がだんだん分かってきたことです。例えば、友達に使う言葉と先生に使う言葉が分かってきて…」、クラスター3「今は先生と話す機会があまりないから尊敬語を使う機会が少なくなりました」、クラスター4「…今は自分で勉強できるようになった…」から、Aの日本語学習に変化を感じている部分は、漢字の学習、敬語の使い分け、敬語を使う機会が少なくなったこと、独習で日本語の学習ができるようになったことなどを挙げている。

B: クラスター1「漢字の意味(の類推)と語彙力が伸びました。漢字の読む力より漢字の意味(の類推)の力が伸びました…漢字が読めなくても意味は分かるようになったと思います。」、クラスター2「聞き取りは2年前より高くなったと思います。」、クラス

ター3「速読は上達したと感じます。カタカナも色々な本を読んで勉強して2年前より上達したと思います。」から、Bの日本語学習に変化を感じている部分は漢字の類推力と語彙力が伸びたこと、聞き取りの能力が高くなったこと、速読とカタカナ語の能力が高くなったことを挙げている。

以上、本国におけるCOVID-19パンデミック下の日本語学習観においては、最も重要な日本語学習として漢字の学習を挙げているが、漢字の学習量が少なく、専門科目の漢字や漢字を書くことが難しいと感じている様子がかがえる。日本語学習においては会話などの話す力が弱いものの、本国にいるため日本語で話す機会が少ないと感じてようである。また、敬語の使い方、自動詞と他動詞の区別、速読、カタカナ語についても難しく感じており、最も難しい日本語は会話であると感じていることがわかった。オンライン授業に現れた特徴としては、オンライン授業においては漢字の読み書きを難しく感じており、日本語で話す機会が少なくなったと感じているようである。また、オンライン授業では質問がしにくく、スライドなどの授業資料のない授業は特に難しく感じているようである。

来日後のCOVID-19パンデミック後の日本語学習観においては、日本留学の前後で漢字の意味の類推に力は伸びたのに対して、逆に漢字の書く力が弱くなったと捉えており、複雑な漢字より簡単な漢字が書けないため、テストの時も困っているようである。また、日本人との日本語で会話する機会が増え、生の日本語に触れる機会が多くなっているものの、会話の際に話し言葉と書き言葉の区別と普通形と丁寧形の区別が難しいと感じているようである。さらに、留学後は自律学習ができるようになり、漢字の意味、待遇表現、語彙力、会話力などは留学前より能力が高くなったと考えているようである。その一方で、大学3年次の現在の学習困難点として、漢字の書き方、常体と敬体の使い分け、使役形、受身形、敬語などを、最も難しい日本語として早口言葉と漢字の書き方をそれぞれ挙げており、これらの学習項目については予備教育期間中から十分な指導をする必要があると考えられる。

COVID-19パンデミック前後の日本語学習観の変化については、被調査者2名は漢字の読み書き、敬語の使用、独習による日本語の学習、語彙力、聞き取り、速読、カタカナ語について2年前に比べて日本語学習に変化が起きていると感じていることがわかった。特に、漢字の意味の類推力は伸びているのに対して、書く力は逆に弱くなっていると感じていることが特徴的な点として挙げられる。

本稿では、マレーシア政府派遣留学生を対象に来日前後の日本語学習観について比較検討した。その結果、来日前のCOVID-19パンデミック下でオンライン授業を受講

していた時は、漢字学習が重要な学習項目と捉え、来日後約2年が経過した大学3年次の時も漢字学習が困難であると感じていることがわかった。また、来日後に生の日本語に触れる機会が増えた結果、漢字の意味の類推、自律的学習、聞き取り、語彙力、速読などの日本語能力は伸びていると自己判断していた。しかし、漢字の書き方、話し言葉の書き言葉の区別、待遇表現の使い方、敬語の使い方などは、大学3年次になっても学習が困難であると感じており、最も難しい日本語として早口言葉や漢字の書き方を挙げていることがわかった。

マレーシアにおける予備教育期間中は、これらの日本語学習上の特徴や学習困難点を考慮した上で日本語教育を行う必要があると考えられる。今後、マレーシア政府派遣留学生の日本語学習に加えて数学、物理、化学などの専門科目の学習状況も検討した上で、彼らの修学状況について総合的に検討する必要があると考える。これを今後の課題としたい。

#### 【付記】

本研究の一部は、JSPS科研費(21H00537)の助成を受けて行われたものである。

#### 【注】

1. 茨城大学全学教育機構、金沢大学国際機構
2. [https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/hito/ryu/pdfs/asean\\_kenkyu4.pdf](https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/culture/hito/ryu/pdfs/asean_kenkyu4.pdf)  
(2024年2月2日最終閲覧)
3. 1983年に始まったAAJの35年間の歴史とプログラム全体の問題点については、佐々木良造(2023)に詳述されている。
4. インタビュー調査を開始する前に、被験者となる2名のマレーシア政府は県留学生に対して、研究の目的とデータの公開方法に関する説明を十分に行い、同意を得た上で調査を開始した。

#### 【参考文献】

- 小川誠(1995)「マラヤ大学予備教育課程における日本語教育」『日本語教育』85, 151-159, 日本語教育学会
- 佐々木瑞枝(1989)「マラヤ大学にて」『月刊日本語』2-12, 58-59, アルク
- 佐々木良造(2023)「マレーシア政府派遣予備教育の35年間」『日本で学ぶ理工系留学生-教育・研究・留学生活』, 37-57, ココ出版
- 内藤哲雄(2002)『PAC分析実施法入門-「個」を科学する新技法への招待』(改訂版), ナカニシヤ出版
- 渡辺淳一(2003)「マレーシア政府派遣学部留学プログラム-現状, 問題そして将来にむけて」『大学と学生』470, 7-16, 文部省大学局学生課

# Transformation of Perspectives on Japanese Language Learning in Malaysian Government-Sponsored Exchange Students

～Comparing Pandemic Online and Post-pandemic Face-to-Face Classes～

AN Yongsu and OTA Akira

## Abstract

In this study, the authors qualitatively explore the evolving perspectives on Japanese language acquisition among Malaysian government-sponsored exchange students. We used PAC analysis to study these transformations, both before the students' arrival in Japan (during the pandemic era of online classes) and after transitioning to face-to-face instruction in Japan. The pre-arrival survey was administered at the culmination of their first year of tertiary education in Malaysia, coinciding with the peak of the COVID-19 pandemic. Additionally, a post-arrival survey was conducted at the conclusion of their third year in Japan. Our findings from the initial survey revealed the following key observations: (1) The Malaysian students highlighted the significance of mastering kanji in Japanese language acquisition but acknowledged their limited proficiency in kanji writing; (2) They identified challenges in politeness levels, intransitive and transitive verbs, rapid reading, and katakana words, with online conversations posing the most difficulty; (3) Participants recognized difficulties in kanji reading and writing during online classes and noted limited speaking opportunities. Conversely, the post-arrival survey uncovered the following significant changes: (1) After their arrival in Japan, students believed their ability to infer the meanings of kanji had improved, yet their kanji writing skills had diminished; (2) Distinguishing between spoken and written language, as well as using plain and polite forms during conversations, remained challenging; (3) The students exhibited enhanced autonomy in Japanese language learning, with improved proficiency in kanji meanings, honorific expressions, vocabulary, and conversational skills compared to their pre-Japan phase; (4) Despite these improvements, students continued to grapple with issues such as kanji writing, differentiation between plain and polite forms, causative and passive forms, and honorific expressions. Moreover, they reported perceiving transformations in various aspects of their language acquisition, including



kanji reading and writing, the application of honorific language, autonomous learning, vocabulary acquisition, listening comprehension, rapid reading, and recognition of katakana words, when comparing their experiences before and after their arrival in Japan.

**Keywords:** Malaysian government-sponsored exchange student, Japanese language tertiary education course at Malaya University, Perspectives on Japanese language learning, Transformation of the perspectives on Japanese language learning, PAC analysis